

3-6 学系別情報技術活用研究集会の開催結果について

学系別情報教育研究委員会の要請に応じ、関係教員による意見交換や優れた活用方法の模索研究を目的とした研究集会を開催した。本年度は、15年1月より3月にかけて、文学、被服学、機械工学、法律学の4学系による研究集会を開催した。

以下に、開催結果を報告する。

1. 文学教育情報技術活用研究集会

本研究集会は、日本文学を中心とした教育の活性化を図るための一つの打開策として、ITを活用した新しい教育方法を模索し、それを通じて授業の改善を図ることを目的として開催された。

プログラムは、文学情報教育研究委員会によるITを活用した授業事例の報告3件(浜口・竹本・平澤委員)のほか、文部科学省国文学研究資料館の中村康夫教授による、自作データベースの教育への活用方法に関する講演があり、その後パネルディスカッション形式で、現状における文学教育方法の問題点、現状打開のためのIT活用について全体討議を行った。(総合司会は佐伯委員)

討議では、時間・場所にとらわれず誰もがアクセスできる情報環境整備の必要性、教員間のメディア・リテラシーの隔たり、著作権や肖像権による教材作成の困難さなどについて意見交換が行われた。

以上を踏まえて、本研究集会ではITを活用した具体的な実践事例から、参加される教員が日々抱えている教育方法のあり方に大きなヒントや指針を与えることができた。期待した以上に授業改善のために教育へのIT化は避けられないことが伺えた。また、その中でも特に教材の作成にコストや技術面での問題もあることから、できるだけ労力をかけずに大学間で協力して進めることの重要性も確認された。その際、著作権問題をどのようにクリアしていくかが課題であるとの認識で大方が一致し、私情協の今後の活動に大きな期待が寄せられた。

以下に、開催要項を掲載する。

平成14年度文学教育情報技術活用研究集会

テーマ：文学教育危機の時代を考える－日本古典文学を中心として
開催日時：平成15年1月25日(土) 12:30～17:00

会 場：早稲田大学6号館2階201教室

参加者数：31名（加盟大学19校、加盟短期大学3校、非加盟大学2校）

プログラム

12:30 施設見学（早稲田大学中央図書館・演劇博物館）

竹本 幹夫 氏（早稲田大学文学部教授）

14:10 委員会報告『ITを活用した文学教育の実例』

1. 早稲田大学におけるIT技術を応用した文学関係の授業

竹本 幹夫 氏（早稲田大学文学部教授）

2. Webサイトを活用した日本文学基礎演習「変体仮名・古筆」

浜口 俊裕 氏（大東文化大学文学部助教授）

3. 日本語語彙分析へのマルチメディアの活用

平澤 洋一 氏（城西大学女子短期大学部現代文化学科教授）

15:10 特別講演『私の電子図書館－教育と研究の観点から－』

中村 康夫 氏（文部科学省国文学研究資料館 教授）

16:15 全体討議「ITを活用した教育プログラムの可能性」

司会：佐伯 眞一 氏（青山学院大学文学部 教授）

パネラー：中村 康夫 氏、竹本 幹夫 氏、浜口 俊裕 氏、
平澤 洋一 氏

17:00 閉 会

2. 被服学教育情報技術活用研究集会

被服学教育では、CADやCGの活用がパターンの理解を深め、デザイン感覚を養う上で非常に効果的と考えられているが、授業内容や教育方法についてはそれぞれの教員が個別に対応している。そこで、本研究集会では、実際の授業事例を題材に、学生が興味を抱く授業のあり方やアイデアを模索するため、ITを活用した教育方法や教育支援などの問題について意見交流することにした。

プログラムは、被服学情報教育研究委員会によるCADを活用した授業事例として、アパレル現場で実際に使用されている専用機を用いての実習や教員合同チームによるカリキュラム・教材作り、大学支援による環境整備の事例、データベースを活用したデザインとパターンの融合教育の事例、簡便なソフトを活用したCAD教育の可能性の三事例について報告があった。また、ネットワークを活用した授業方法の一例として、14年10月に昭和女子大学と女子美術大学との間で実験したネットワーク上での衣服製作の合同講評会について報告があった。特に全体討議は行わなかったが、上記の三事例の質疑の中で、CAD教育の課題としては、コンピュータやソフトの操作に時間が割かれてしまい、本来のパターン教育が十分にできないという問題を解決するヒントが得ら

れたこと、CAD授業には、教材作り、カリキュラム作り、高価なCAD設備の整備など大学あげての教育支援が重要であること、大学間での教材の相互使用の実現が望まれること、また、高価な設備やソフトがなくても企業と連携して安価なソフトを入手して工夫する必要があることなどが認識された。

以下に、開催要項を掲載する。

平成14年度被服学教育情報技術活用研究集会

テーマ：CADを使った授業実践－パターン教育を中心として－

開催日時：平成15年2月15日（土）16：00～18：00

会場：杉野ドレスメーカー学院第二校舎4階メディアホール

参加者数：75名（加盟大学11校、加盟短期大学9校、非加盟大学3校、非加盟短期大学6校）

プログラム

16：00 開会

杉野服飾大学学長挨拶

中原 好文 氏

研究集会開催にあたって

高部 啓子 氏（実践女子大学）

16：10 委員会報告「CADを使った授業実践」

1. 「パターン展開を中心にグレーティング、マキソを加えたCAD100%の実践例」

高橋 良子 氏（文化女子大学短期大学部）

2. 「デバッグ化した60型からの展開によるデザインとパターンの対応実践例」

小倉 文子 氏（女子美術大学）

3. 「汎用コンピュータ室を利用したアパレルCAD教育－汎用ソフト利用による簡単なパターン作成と簡便なアパレルCADソフトの紹介－」

伊佐治せつ子 氏（武庫川女子大学）

17：30 委員会報告「インターネットを介した合同講評会」

猪又 美栄子 氏（昭和女子大学）

17：50 まとめ

鈴木 美和子 氏（杉野服飾大学）

18：00 閉会

3. 機械工学教育情報技術活用研究集会

本研究集会は、学生に機械工学のモチベーションを与えるための一つ的手段として、IT活用の有効性と利用上の課題について理解を深め、機械工学教育の改善に資することを目的として開催された。

プログラムは、機械工学情報教育研究委員会によるITを活用した授業事例

の報告のほか、教員に対する教育評価の在り方についての講演を交え、全体討議を行った。

討議においては、動機付け教育が実現できるよう教室と企業との現場をネットで結び、企業現場の声をリアルタイムで入手できるようにすることが重要とし、そのために企業が協力いただけるよう私情協としてWeb上に人材データベースを構築する必要があること、e-Learningについての必要性を確認するとともに、有用な教材作りのためにWeb上での教員間の連携を促進する必要があること、ITを活用した授業の成功例・失敗例を多くの教員が共有できるようにすることなどが提案された。

以下に、開催要項を掲載する。

平成14年度機械工学教育情報技術活用研究集会

テーマ：ITを活用した機械工学教育と教育業績評価

開催日時：平成15年3月8日（土）午後1時から午後5時まで

会場：上智大学四ツ谷キャンパス図書館812会議室

参加者数：36名（加盟大学20校）

プログラム

- 13:00 開会挨拶 曾我部 潔 氏（上智大学理工学部教授）
- 13:10 特別講演：今後求められる工学教育と教育業績評価
島田 彌 氏（三菱電機株式会社 人事部顧問）
- 14:20 委員会経過報告：機械工学の授業とIT・マルチメディア
曾我部 潔 氏（上智大学理工学部教授）
- 14:35 ネットワークを用いた動機付け授業展開
田辺 誠 氏（神奈川工科大学工学部教授）
- 15:05 e-Learningを用いた授業展開
角田 和巳 氏（芝浦工業大学工学部講師）
- 15:35 創造性を支援する3次元モデリング授業
新津 靖 氏（東京電機大学情報環境学部教授）
- 16:20 総合討論
- 17:00 閉会

4. 法学教育情報技術活用研究集会

本研究集会は、法科大学院において求められる実務能力、法的思考力養成のため、ITを活用した新しい教育方法を模索することを目的として開催された。

プログラムは、法律学情報教育研究委員会より、e-Learnig教育のための共通プラットフォーム作りに対する提案、ネットワークを活用した大学間での模

擬法廷環境の共通化に対する提案、紛争処理の解決を図るためのテクニックをITを活用して教育することの提案があった。また、名古屋大学菅原都夫教授より、法廷での実技指導を充実させるため、ビデオ・オン・デマンドを活用して法廷内での尋問技術などを中心に演習が可能となるシステムの提案があった。さらにドイツ・ザールラント大学法情報学研究所のヘルムート・リュスマン教授より、ドイツにおける法曹実務家育成のためのITを活用した授業に関する講演があり、それらを踏まえて法曹界より早野貴文弁護士、加藤新太郎司法研修所教官を迎え、法科大学院におけるITを活用した教育方法について全体討議を行った。

討議においては、各大学が実施する模擬法廷の授業をビデオに収録し、それをネットワーク上で大学間で共有できるようなシステムを今後考える必要があること、また、法科大学院のみならず法学教育のあり方について、ソクラティック・メソッドとケース・メソッドを融合した教育が望ましいこと、e-Learningシステムの共通化については、金銭的にはあまり高いコストはかからないが、教員に多くの負荷がかかることから、大学間で共通化したプラットフォームを設置する必要があることが確認された。また、開発したロイヤリングシステムを多くの大学が利用できるようなコンソーシアム構築の要望もあった。なお、コメンテータからは、法科大学院の側からあるべき法曹実務を提案するべきであること、ITの活用は、法律家の実践知を理論的に体系化するための良い機会になり得るとの意見があった。

以下に、開催要項を掲載する。

平成14年度法学教育情報技術活用研究集会

テーマ：法科大学院教育におけるITの活用

開催日時：平成15年3月16日（日）午後1時から午後6時まで

会場：桐蔭横浜大学

参加者数：33名（加盟大学25校、非加盟大学2校）

プログラム

13:00 開会挨拶

吉野 一 氏（明治学院大学法学部教授）

13:20 事例報告

1. 対面教育とe-learningの融合

中村 壽宏 氏（九州国際大学法学部助教授）

2. サイバーコートを利用した教育

笠原 毅彦 氏（桐蔭横浜大学法学部助教授）

3. 模擬法廷を活用したロイヤリング教育
菅原 郁夫 氏 (名古屋大学法学部教授)
4. リーガル・クリニックと遠隔授業
町村 泰貴 氏 (亜細亜大学法学部教授)
- 15:20 招待講演 法曹養成におけるIT利用
ヘルムート・リュスマン教授 (ドイツ・ザルツト大学法情報学研究所)
- 16:20 パネルディスカッション・全体討議
コメンテーター：早野 貴文 (弁護士)
加藤 新太郎 (司法研修所教官、検事)
- 18:00 終了